

たろし滝 ～今年の作柄は～

葛丸ダムに行く途中に、凍った滝の氷柱の太さで、その年の稲作の作柄を占う「たろし滝」があります。「たろし」とは方言で“つらら”のことです。



葛丸川に掛けられた仮設橋を渡って「たろし滝」に向かいます。



旗に導かれて坂を登ると、「たろし滝」が見えてきます。確かに、巨大な「たろし」に見えます。



2月に入ってから暖かい日もあり、氷柱の崩落を心配しましたが、報道によると、今年の氷柱の太さは5.5メートルで、去年の4.55メートルを約1メートル上回り、占いは「豊作」の判定となったようです。



近くで見ると真っ直ぐな氷瀑で、その透明感から「たろし(つらら)」を連想させます。

氷柱の高さは、約13メートルあります。



こちらは可愛い「ミニたろし滝」。



並べてみると、「たろし滝」の大きさが際立ちます。



見上げると凄いです。



普段、この場所は水がほとんど流れていないので滝はありませんが、冬季になると、とげし森から葛丸川に注ぐ沢水が凍って大氷柱となり、この「たろし滝」が出現します。占いもそうですが、冬だけ出現するととても不思議な滝です。来年も農家の方々を安心させるために、太い氷瀑ができることを楽しみに待っています。



雪と氷に閉ざされた葛丸ダムも、春先の用水期に備えて着々と貯水に努めています。今年の「たろし滝」の占いが当たり、実り豊かな豊穰の秋になることを願うものです。